

「公德心を体した国際人の養成」に資する教育環境の整備

平成26～30年度 選定



東京国際大学

取組のポイントや補助効果等

- ◆ キャンパス内に多様な文化、価値観の交錯するグローバル環境を整備
- ◆ 多様な留学プログラムと教育プログラムにより、英語力が大幅にアップ

東京国際大学は、埼玉県川越市に主キャンパスを構え、5学部10学科を設置している。東武東上線の霞ヶ関駅から徒歩5分に位置する第一キャンパスは、現在在籍している学生の母国68か国の国旗がはためき、さまざまな国籍の学生、教員がキャンパスを活気づけ、豊かな国際色を体現している。

2023年には、都内豊島区池袋に「都市型国際キャンパス」の開設を予定しており、最先端のIT環境を整えた知の交流拠点、国際ブレイン・サーキュレーションのハブを構築し、国内はもとより、広く国際社会からも評価される教育機関を目指している。

取組の目的・背景

建学の理念である「公德心を体した真の国際人の養成」とは、民族、宗教、国境をすべて包括的に見うる見識を持つこと、つまりは、グローバル社会における多様性や異文化の理解、他者への配慮、人間性の重視など人類の普遍的な価値観に立ち、「公（おおやけ）」のために貢献する心を備えた健全な社会人を育成することである。この理念を具現化するため、教育環境のグローバル化に鋭意努めている。

1965年の創学時から米国のウィラメット大学（オレゴン州）と連携し、1989年には、そ

の隣接地に当大学のアメリカ校としてTokyo International University of America（以下、TIUA）を設立するに至った。ウィラメット大学とTIUA共同運営によるアメリカンスタディーズ・プログラム（以下、ASP）が、長年にわたりグローバル教育の基軸となり、一定の成果を挙げてきた。他方で、ASP参加者は年間100名程度であり、全学生に占める割合も限定されることから、さらなるグローバル化施策を推進していくこととなった。

教育環境のグローバル化を推進していくに際しては、学生を海外に派遣していく留学等プログラムの拡充も重要であるが、学内環境のグローバル化にも本格的に取り組んでいく必要があった。キャンパスそのものを多様な文化、価値観の交錯の場とし、建学の理念に掲げる人材育成に相応しい環境を創出するため、語学としての英語教育環境整備にとどまらず、英語による専門教育の環境整備にも着手した。日本の人口が減少していくなか、世界各国から優秀な若者を招聘し、日本の経済成長に寄与しうる人材を養成することは、国策として極めて重要であるとの認識にも立脚している。

こうしたことから、英語による専門教育実施体制整備のため、教職員組織のグローバル化（多国籍化）を推進し、これに伴い、学内

文書の日英両語対応、システムの英語対応等、インフラ整備も進めている。他方で、英語環境での留学生受け入れが日本における就職に際しハンディキャップとならないための対策として、外国人留学生への日本語教育や日本人学生との交流促進も極めて重要な課題であると認識している。

取組内容

≡ イングリッシュ・トラック・プログラム

経済学部及び国際関係学部で英語による学位修得が可能なイングリッシュ・トラック・プログラム(以下、Eトラック)を開講している。経済学部においては、Business Economics及びDigital Business and Innovationという二つのコース、国際関係学部においてはInternational Relationsというコースを置いている。また、大学院に関しても、商学研究科、経済学研究科、国際関係学研究科においてEトラックを開講している。ディベートなどを通して、国際舞台で活躍するために必要な力を磨いていく。

入学時において日本語能力を問わないことにより、多様な国・地域からの留学生が参集しており、2019年10月時点での在籍者は1,065人にのぼる。十分な英語力があれば、日本人学生も学ぶことができる。

≡ 多様な留学プログラム

姉妹校ウィラメット大学と当大学アメリカ校TIUAが共同運営するASPは、英語教育とリベラルアーツ教育を合体させたユニークな留学プログラムで、米国の大学認証機関NWCCUからプログラム認証を受けている。毎年当大学から約100名の学生がASPに参加しており、約1年間の留学期間中、ウィラメット大生と寮生活や課外活動を共にし、真の異

文化体験、生きた英語に接している。ASP留学生はアセスメント・テストとして1年で3回のTOEICの受験が義務付けられており、2018年度ASP留学生のTOEICスコアは、平均伸び幅が176点、最高伸び幅が340点と目覚ましい成果を残している。

交換留学の拡充にも鋭意取り組んでおり、ISEP加盟や個別交換協定により世界各国350以上の大学と学生交流ネットワークを結び、多くの学生を海外大学に派遣し、海外からも多くの学生を受け入れている。この他、数週間から4か月間の各種語学留学や、アスリート学生対象のスポーツ留学、日米の大学でのダブルディグリーも可能な長期留学等、学生の多様な留学ニーズに応える体制を整備している。

≡ グローバル・ティーチング・インスティテュート

ウィラメット大学とTIUA共同運営によるASP等、海外留学プログラムの教育効果を高めるため、留学前、留学後のグローバル教育にも注力している。2013年度には英語ネイティブ教員組織グローバル・ティーチング・インスティテュート(以下、GTI)を設置し、現在50人超の教員が所属している。教室での講義担当の他、イングリッシュ・プラザでの実践的英語活用指導に従事している。

1クラス10人程度のレベル別少人数教育により、能動的な学習を身につけさせるとともに、集中力を維持しつつ、高い学修効果につながるよう1コマ60分、週3回の授業を展開している。

≡ イングリッシュ・プラザ

GTIの設置と同時期に、キャンパス内しながら疑似留学体験、異文化交流のできるイングリッシュ・プラザを開設した。GTIの英語ネイティブ教員が常駐し、英会話指導や英語学習のアドバイスを受けられる他、留学生スタッフとの会話や交流の場として活用を促

しており、実践的なコミュニケーション力を培っている。



イングリッシュ・プラザ

≡ ジャパニーズ・ランゲージ・インスティテュート

入学者アンケートの結果によると、Eトラックに入学する外国人留学生の約7割が、日本での就職を将来の進路の一つとして想定している。日本語ゼロ・レベルで入学する留学生も多く、Eトラックにおける日本語教育を担う組織としてジャパニーズ・ランゲージ・インスティテュート（以下、JLI）を設置し、現在30人の教員が所属している。

≡ ジャパニーズ・プラザ

日本語教育に関しても、教室での座学だけでなく実践的学習の場を用意するため、ジャパニーズ・プラザを開設している。イングリッシュ・プラザ同様、JLI教員からの学習指導や、日本人学生スタッフとの会話や交流により、生きた日本語を学ぶことができる。

≡ 外国人留学生の就職指導

外国人留学生は、日本企業の採用慣行に馴染めないケースが多く、特に3年次時点での就職活動本格化に違和感を抱く傾向があり、タイミングを逸した活動に陥りがちである。そのため、キャリアセンターでは、入学直後にキャリアガイダンスを開催し、以後毎学期

開始前にもガイダンスを継続することで日本の慣行への理解向上を図っている。日本の企業文化理解を深めるため、企業と連携したPBL型授業、学内でのカンパニーセミナー、外国人留学生対象のインターンシップ・プログラム等も実施している。

PBL型授業では、学生が企業見学でレクチャーを受けたうえで、企業から与えられた課題を学内で行われるワークショップにて解決を目指す。ワークショップには企業のメンターも参加し、最終的に学生たちは企業で問題解決のプレゼンテーションを行うことになる。こうした取り組みにより外国人留学生の日本企業文化への理解を深めていっている。

主として3年次以降、日本での就職志望が固まった外国人留学生には、個別キャリアサポートの他、外国人留学生採用を行う企業の就職フェスティバルや企業研究セミナーを開催している。

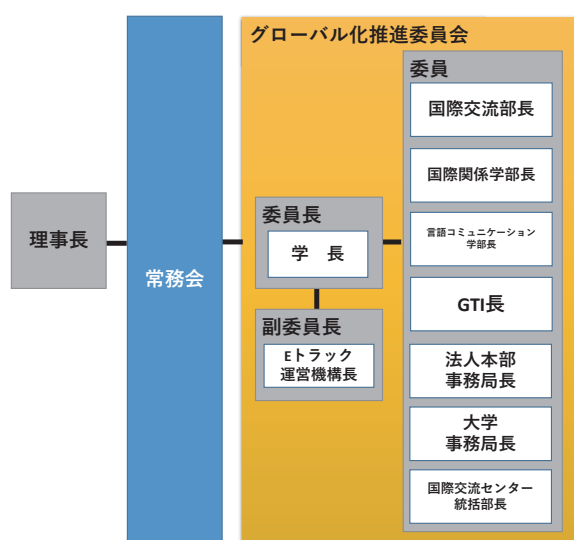
実施体制

全学的グローバル化をけん引していくため、2014年度に学長を委員長とするグローバル化推進委員会を設置した。グローバル化推進委員会が打ち出す方針や施策を学内に徹底していくため、その下に各学部長が参画するグローバル化推進連絡会を設けている。グローバル化推進委員会では、2014年度に諸施策の目処を「グローバル化指標」として設定、推進してきたが、2017年5月の理事会にて、正式に目標として機関決定した。

事務局のグローバル化対応組織としては、まず国際交流センターがインバウンド・アウトバウンドの留学生支援、国際交流施策推進を担当している。Eトラックの履修指導に関しては、教務部内にEトラック教務課を設置し専門の職員が対応にあたっている。留学生の就職指導に関しては、キャリアセンター内

にEトラック生専用受付を設置し、日英対応専門スタッフを配置している。

さらには、学生スタッフや外国人留学生同窓生の参画も進めている。イングリッシュ・プラザやジャパニーズ・プラザにおける会話パートナー、各種交流イベントの運営者、国際寮のレジデント・アシスタント等に対し、学生スタッフを積極的に登用している。また、海外における本学説明会等では、その国出身の学生スタッフや同窓生の協力も仰いでいる。



グローバル化推進委員会組織図

成功のポイントや苦勞した点

理事会の全面バックアップのもと、グローバル教育体制整備に向けた改革を経営・教学一丸となって推進してきた。その結果、各種改革施策も比較的短い期間で迅速に打ち出すことができている。グローバル化対応の教職員採用等、当初手探りの部分もあったが、要

改革成果を示す客観的な数値データ（抜粋）

実績項目	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
外国人学生比率	11.6%	14.0%	14.7%	16.7%	18.5%
外国人教員比率	19.2%	24.0%	27.9%	30.7%	35.8%
外国語で行われている講座の比率	9.4%	11.5%	12.9%	18.2%	23.9%
外国語のみで卒業できるコース在籍者※	—	252人	469人	713人	906人

※ 大学院研究科を含む

所に核となる人材を確保することができたため、改革推進に弾みをつけられた。これにより、グローバル化はますます進展しており、外国人教員比率、外国人留学生比率、外国語による授業科目数等々、各種指標も目に見えて上昇している。

これらが評価され、イギリスの高等教育専門誌タイムズ・ハイヤー・エデュケーション（Times Higher Education、THE）「THE世界大学ランキング 日本版」では、「国際性」分野において2017年以来3年連続で10位以内の評価を受け、2019年は5位にランクインしている。

今後の課題・展望

インバウンド・アウトバウンドの留学環境整備に注力してきたが、日本人であれ外国人であれ、留学先で現地学生と自然に交流することは、誰にでも容易にできるものではない。ASPに関しては、ウィラメット大学の学生寮での共同生活、現地学生との共修クラス、課外活動参加機会等、いろいろな学生交流の仕掛けが用意されている。これに連動する形で、学内での日本人学生と外国人留学生との交流機会に関しても、現行以上にさまざまな施策を打ち出していく必要がある、共修クラスや留学生の参加しやすい課外活動の拡充等に対応していきたいと考えている。

2023年に開設予定の池袋国際キャンパスには、当大学のグローバル教育機能を集約させ、これまで推進してきたグローバル化施策をさらに発展的に展開していく計画である。